

## 令和5年度第1回春日井市地域包括ケア推進協議会議事録

1 開催日時 令和5年10月10日（火）午後2時から午後3時15分まで

2 開催場所 市役所 第3委員会室

3 出席者

【会長】 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 三浦 久幸

【委員】 春日井市医師会 前田 誠司

春日井市歯科医師会 川口 剛

春日井市薬剤師会 林 きよみ

春日井市民病院 成瀬 友彦

春日井保健所 増井 恒夫

愛知県認知症疾患医療センター 柴山 漢人

春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会 若月 剛治

春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会 大野 哲嗣

地域福祉アドバイザー 南部 哲男

春日井市民生委員児童委員協議会 池田 恭子

春日井市社会福祉協議会 大塚 淳弘

【欠席】 中部大学 白石 知子

【事務局】 健康福祉部長 神戸 洋史

地域福祉課課長 長坂 匡哲

課長補佐 古川 裕樹

主査 梶原 綾

在宅医療・介護サポートセンター 早川 勝広

健康増進課課長 佐藤 和子

健康増進課課長 兒島 康万

【傍聴者】 1名

4 議題

(1) 令和5年度春日井市地域包括ケア推進状況報告

ア 在宅医療と介護の連携について

イ 認知症総合支援について

ウ 生活支援体制整備について

## エ 介護予防について

### 配付資料

#### 春日井市地域包括ケア推進状況報告

## 6 議事内容

議事に先立ち、会議は公開で行うとともに、議事録は要点筆記とし各委員が確認手続きを行った上、会長及び会長が指名する者が署名することを確認した。

### (1) 令和5年度春日井市地域包括ケア推進状況報告について

【梶原主査】 議題1について説明

【三浦会長】 かすがいねっと連絡帳（以下、「連絡帳」と略す。）の登録は病院・診療所や介護関係者で非常に高くなってきている。

【前田委員】 医師会は会員への連絡事項や意見交換、医師会内の委員会の開催、夜間の会議も連絡帳を使っている。連絡帳の本来の使い方は、介護、在宅医療での多職種の人たちの情報交換することだが、そのような使い方が伸び悩んでいるというのが目下の課題である。

【梶原主査】 ケアマネジャーから医師への連絡はタイミングが難しい、患者情報のやりとりの中に医師を招待してもいいものかと悩んでいるケアマネジャーもいる。市では必要だと思ったタイミングで、医療機関に声かけいただくように案内している。

【三浦会長】 ケアマネジャーから見るとどんな優しい医師でも、敷居が高いというイメージがあるようだ。

【大野委員】 最初の取っかかりの敷居が高い、タイミングが難しい、患者の同意を得なければいけないなどの問題があり、なかなか活用が出来ていない。連絡帳は使えばすごく便利なものであり、これから進めていきたい。

【三浦会長】 愛知県の入退院調整支援事業について、長寿医療研究センターも関わっている。入退院調整支援ルールをお示しいただいたが、入退院支援ルールの試行に参加してみてもの感想はいかがか。

【大野委員】 ケアマネジャー側としては、いろいろ情報をいただけて助かって

いる。ケアマネジャーは数か所の病院とのやりとりだが、病院側は多くの患者の情報を多くのケアマネジャーとやりとりすることとなる。病院側の負担を考えると段階的に進めていくのが良い。

【成瀬委員】春日井市民病院では、今回の試行で4か所の事業所に対応し、2か月間で20数例あった。このままのマンパワーでは難しいことがわかったが、趣旨としては大変重要であるため今後は病棟の看護師も参加させるなどの対応も考えていきたい。

【三浦会長】実際に継続的にやっていくには対象者をある程度絞った形で段階的にやっていくのがよい。

【川口委員】入退院調整支援の暫定ルールについて、歯科医院の通院の情報が入っているのか。入院時に歯科受診に関する情報が伝わっておらず、退院後に口腔内状態が悪くなる患者がいる。歯科医院にも情報提供してもらえると良い。

【梶原主査】現状のルールでは、ケアマネジャー作成の情報には歯科情報の項目はないが、現在のものは暫定的なものであり、川口委員の意見も盛り込んでいけるかと思う。

【三浦委員】試行については件数を増やすのではなく質を高めていくほうが良いという委員の意見が多い。

【柴山委員】今年の6月に認知症基本法が国会で承認され、認知症に対する理解には、社会教育や学校教育できちんと教育をする体制になると期待している。

【三浦会長】市が実施したオレンジリングドレスアップは非常に画期的であった。

【若月委員】市民に認知症を理解してもらうためには認知症見守りアプリの普及活動は重要である。市からの委託事業の春日井ハートスクールで生活援助員向けの研修を開催している。

【三浦会長】認知症サポーター養成講座の実施回数が昨年度に比べると減少しているが、学年を決めて毎年実施するのはいかがか。

【梶原主査】校長会等で啓発しているが、実施校は固定されているため、実施方法や周知方法を検討していきたい。

【大塚委員】 認知症初期集中支援チームの実施件数は新規の相談件数が倍増している。その理由として、認知症を疑われる高齢者の運転免許証の返納ケースの相談が多くなっている。初期集中支援チームは、地域包括支援センターと連携し、医療機関へのつなぎや家族支援を行っている。

【南部委員】 地域活動としての認知症の学びについては講義や講演会などで理解は進んできている。並行して、家族の思いに寄り添う家族交流会が各地域で出てきている。家族介護者が集まって家族の悩みや苦しみを話すことによって参加者が少し楽になる。家族へのカウンセリングも必要であり、やさしいまちづくりにもつながり大変うれしいことだと思う。

【三浦会長】 生活支援体制整備事業について、地域福祉コーディネーターが活発に活動しているようだが地社会福祉協議会としては、どう評価しているのか。

【大塚委員】 活動としては新規団体の立ち上げや既存団体の活性化などの支援をしている。  
窓口にも頻繁に地域住民が来所されており地域福祉コーディネーターの役割は大きい。

【成瀬委員】 独居の高齢者を支援する取り組みはあるのか。

【大塚委員】 社会福祉協議会では介護保険非該当者を対象に、ボランティアが「ちょっとお助け隊」として、簡単な家事支援、電球の交換などを行っている。

【池田委員】 春日井市内でもひとり暮らしで相当困っている方が増えている感じはある。ひとり暮らしで認知症の場合もあり、庭の草刈りや家具の移動など地域で手伝っていくといいと思う。

【南部委員】 民生委員が高齢者を見守るのは今までずっとやってきているが、高齢者の増加により民生委員だけでは無理なため、地域住民が、民生委員と協働して見守り隊を作ってやっていく動きがある。

【川口委員】 集団で実施する口腔機能向上事業は、コロナの影響を受け実施できなかった。他に、歯科医院で個別に実施する誤嚥予防プログラ

ムがあり、口腔機能向上についての事業内容について検討していきたい。誤嚥性肺炎で入院した場合、退院時の再発防止プログラムがあるとよい。

【柴山委員】比較的最近のサイエンスに歯周病菌がアルツハイマー病の人の脳で発見されたという報告があり、認知症との関連についても口腔ケアは非常に大事である。

【若月委員】口腔ケアについて、令和3年度介護報酬改定において、入所施設では、口腔衛生管理体制を整えることが基本サービスとして義務化された。誤嚥性肺炎などの予防にもなるため、入所施設では、栄養管理と合わせて取り組み始めている。

上記のとおり、令和5年度第1回春日井市地域包括ケア推進協議会の議事の経過及びその結果を明確にするために、この議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和5年12月7日

会 長      三浦 久幸

委 員      若月 剛治